

## 中学校区単位の「地域協育ネット」の取組の難しさと必要性

月曜日に地域の会合が2つありました。いずれも、今、良城小学校が置かれている状況下で、とても重要な会議でしたので、その概要と、協議を受けて考えた今後の本校教育の方向性について、2回に分けて記します。

### 【鴻南中学校区地域協育ネット推進会議】

地域協育ネットとは、中学校区単位で、コミュニティ・スクールなど学校を支援する諸活動の連携を図ろうという取組です。

良城小学校の児童が進学する鴻南中学校は、本校だけでなく大歳小学校の児童も進学します。両小学校では、吉敷・大歳地区それぞれでコミュニティ・スクールとしての地域とともにある学校づくりを進めています。

協育ネットは中学校単位ですから、さらに鴻南地域という大きな単位での連携を考えていかななくてはなりません。

協育ネットの取組はまだ始まったばかりです。1小1中の地域では、何の問題もなく、地域が小中学校を支援することが出来ると思います。しかし、本地域のように複数の地区から中学校に進学するような地域では、非常に厳しい課題があります。

吉敷地区は鴻南中学校が校区内にあることから、鴻南中学校への支援も自分たちの地域活動の一環として認識されていると思います。しかし、大歳地区は、校区外にある鴻南中学校を積極的に支援するという認識にはなかなか至らないのは当然でしょう。

しかし、鴻南中学校の生徒の成長を考えれば、両地域からの支援は必須です。これまで両地域からの単独の支援はあったとは思いますが、さらに地域と連携した「協育」が必要である今、両地域が連携した取組が求められます。

前任校の上宇部中学校も同様でした。琴芝

小と上宇部小の児童が、上宇部校区に立地する上宇部中学校に進学します。ここでの地域協育ネットの活動もなかなか進まなかったのですが、それでも中学校生徒の豊かな成長のために両地域は少しずつ共通の場に出て、共通の取組を進めていきました。3校の教職員も何回も集まって共通する取組を考えていきました。

さらには、中学校生徒が大変積極的に地域に出てボランティア活動に取り組み始め、中学生徒が両地域の地域活動の担い手として認められるようになりました。中学生のボランティア活動はそれは見事で、中学生が地域の皆さんから直接褒められる場面が地域にあふれ出しました。

その流れに合わせて、小学校児童も地域ボランティア活動に加わり、小中の相乗効果が地域の活性化にもつながり始めました。

鴻南校区では、まだまだそこまで進むことは難しいと思いますが、中学校の山崎校長先生が、「まず中学生の地域での認知度を高めていきたい。」と話しておられたので、その取組を見ながら、本校の児童の参加も考えていきたいと思っています。

夏休みには、3校の教職員が集まる計画もあるようです。小学校卒業だけでなく、その後の15歳の春までも視野に入れた地域連携教育を進めていきたいと思います。

月曜日の夕方、良城小学校に行く途中、横断歩道に中学生の男子数人がいたので車を止めて渡らせました。その中学生達は、渡る前に会釈をし、渡ってからも振り向いてもう一度会釈をしてくれました。このような地域はなかなかないと思います。良城小での挨拶指導のたまものですね。このような心優しい児童生とがあふれる教育・協育をこれからも継続していきましょう。